

いもう 葦毛通信



ネジキ

平成 30 年 8 月 29 日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町 3 丁目 1
TEL : 0532-56-6060

No. 69

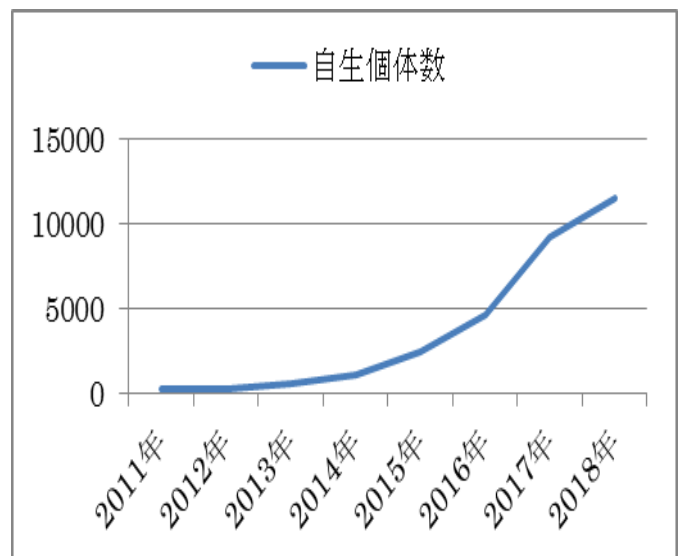
1、2018年のナガバノイシモチソウ - 1

豊橋市のナガバノイシモチソウは7月末日頃を基準に自生数の計測を20年以上続けています。今年も7月31日に計測し結果が出ましたので中間報告します。

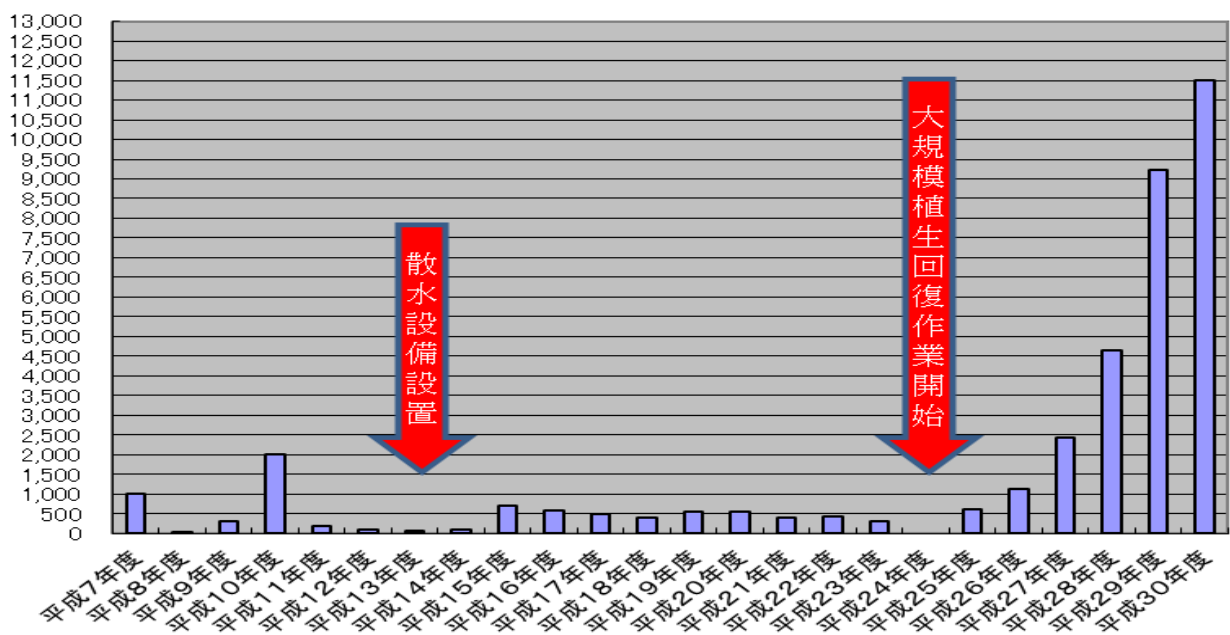
1) 自生個体数の変化

2013年の大規模植生回復作業開始以後、ナガバノイシモチソウは個体数、開花数ともに順調に増えています。今年の個体数は基準日の7月31日で、**11,487**個体になり、昨年同時期の**9,233**個体の約1.25倍になりました。これまで個体数は5年連続で前年の約2倍になっていました。今年も2倍になれば、64倍になるはずでしたが、さすがに2倍にはなりませんでしたが。しかし、基準年である平成23年の300個体の約**40倍**になりました。増加の曲線を見ると2014年から直線的に右肩上がりに伸びているように

自生個体数の変化



ナガバノイシモチソウ自生個体数の変化(基準日:7月末)



見えます。増加のペースは落ちましたが、個体数の増加が止まったわけではありません。どこまで伸び続けるのかはわかりませんが、第7地点のように、まだ日照の確保が不十分な地点もあり、増加の余地は残っていると判断しています。

しかし、個体数はいずれ頭打ちになって安定し、それ以後は増減を繰り返しながら推移していくと考えています。どの程度の個体数で安定するかはまだわかりませんが、現在のナガバノイシモチソウ群落の密度、各地点の水分量・地質条件・植生の違い等を考慮すれば、30,000 個体程度までは増える可能性はあると予想しています。つまり、基準年である平成 23 年の 300 個体の 100 倍程度にはなると考えています。

2) 開花数の変化

2011～2017 年までのナガバノイシモチソウの開花数の変化を見ると、大規模植生回復作業を開始した 2013 年から 2017 年までは、最高開花数、平均開花数ともに一定の割合で増加していることが分かります。大規模植生回復作業開始前の 2011 年には、最高開花数が 135 輪、平均開花数が 35 輪でしたが、2017 年には最高開花数が 1,436 輪、平均開花数が 587 輪になり、ともに 10 倍以上に増加しています。

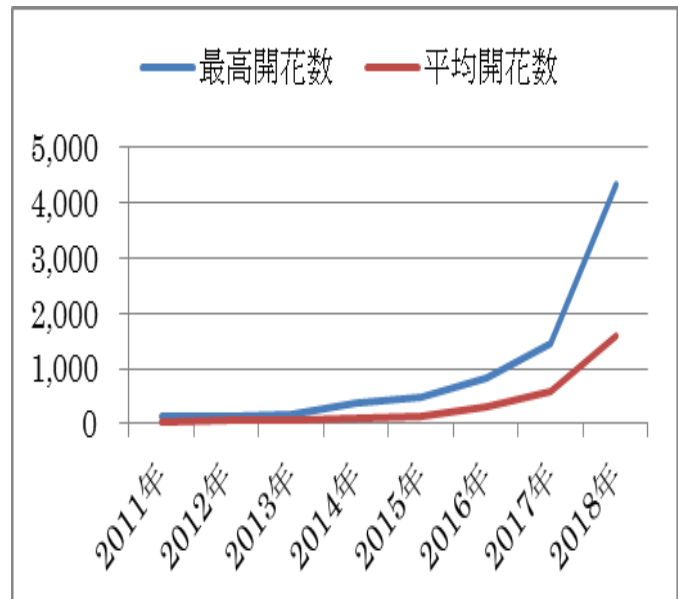
しかし、2018 年は最高開花数・平均開花数ともにこれまで以上に大きく増加しています。2018 年はまだ観察途中の数値なので、最高開花数・平均開花数ともに増える可能性が高いと思われますが、最高開花数は 2017 年の 1,436 輪（10 月 9 日）から、2018 年は 4,320 輪（7 月 24 日）へ、平均開花数は 2017 年の 587 輪から、2018 年には 1,564 輪へとともに約 3 倍に増加しました。大規模植生回復作業開始前の 2011 年と比較すると最高開花数は約 32 倍、平均開花数は約 45 倍に増加しました。

2017 年までには個体数が約 30 倍になりましたが、最高開花数・平均開花数はともに約 10 倍で、両者には約 3 倍の開きがありました。なぜ、このような差があるのかはわかりませんでした（葦毛通信 N0.63 参照）。

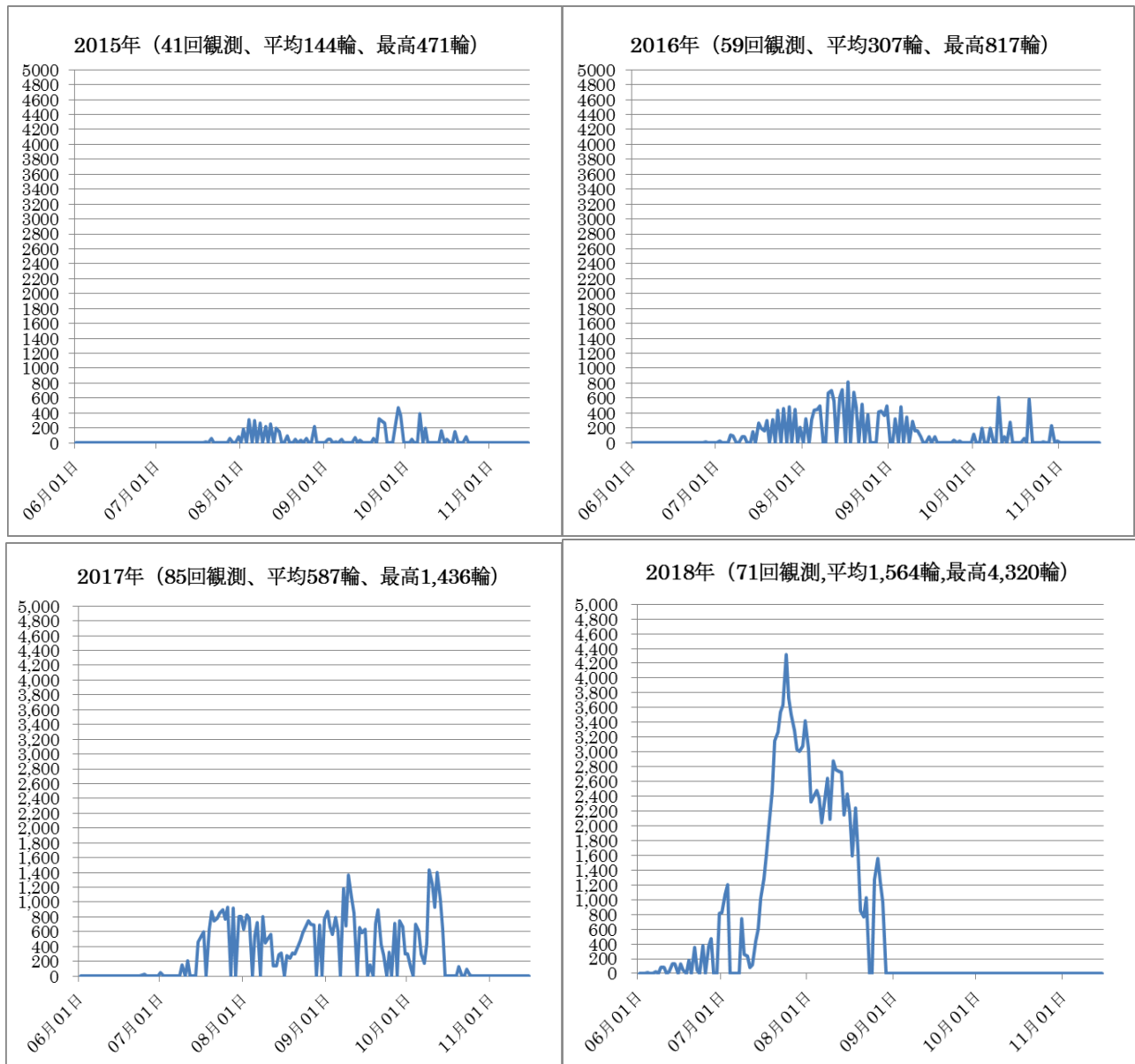
今年は開花数が一気に増えて、個体数と開花数の増加率が約 40 倍とほぼ同じになった状態です。昨年と今年で異なっている点は、南側の木を面的に広く伐って、南からの日照を大きく改善したこと（葦毛通信 N0.65 参照）、6 月以降猛暑が続き、熱帯起源のナガバノイシモチソウにとって良好な環境だったことが想定できます。おそらく、日照を大きく改善したことが主因と考えられますが、まだ指定地内の南側には高木が残っており、日照を妨げている部分があります。今年はこれらの高木を伐って、さらに日照を確保するつもりです。

開花のパターンも今年はこれまでと異なっています。これまででは初めて開花する時期が 6 月末頃でしたが、今年は 6 月 3 日で約 3 週間早くなっています。7 月 3 日には 1,207 輪で最初のピークを迎え、7 月 11 日には 79 輪に急減しました。しかし、その後急速に開花数が増え、7 月 24 日には 4,320 輪で 2 回目のピークを迎え、約 2 週間で約 5.5 倍に増えました。これまでではこれほど急激な開花数の増加は見られず、緩やかな増減といくつかのピークがある状態でした。

最高開花数・平均開花数の変化



現在は、開花数が減少し、1,000輪前後で推移していますが、これから増加に転じていくと予想しています。昨年同時期と比較すると開花数は3～4倍になっています。今後、いくつかのピークが表れて最高開花数は更新されると予想しています。



3) 各地点の群落

ナガバノイシモチソウ自生地は今年になって各地点が**安定した状態**になってきました。

第1～8地点のいずれも、わずかに低く水分が多いところにヤマイ、テンツキが大きな群落を作り、わずかに高くなって少し乾燥したところにナガバノイシモチソウが群落をつくる同じような景観を示すようになりました。ナガバノイシモチソウのあるところはイトテンツキやヒナノカン



全体（西から 2018年7月28日）

ザシのように背の低い植物と共生しています。

テンツキとヤマイはあまり混じり合うことなく別々の群落を形成しています。テンツキの群落は密集し、背が高いため、ナガバノイシモチソウはあまり発芽していませんが、ヤマイは密集度が低くまばらなため、ある程度日照が確保されるのか、まばらにナガバノイシモチソウが見られます。

第1地点（右上写真）

第1地点では写真中央に少し白くなった部分がありますが、ここがナガバノイシモチソウの集中する部分です。周りよりもわずかに高くなっています。手前はテンツキの群落になっており、ナガバノイシモチソウはあまり見られません。テンツキは台風で倒れたため穂を刈り取ってあります。

第6地点（右中写真）

中央と左側に白くなった部分があり、ここがナガバノイシモチソウの群落です。右側の縁石沿いにはテンツキの群落が、中央奥にはヤマイの群落があります。いずれもナガバノイシモチソウの群落より水分が多いところです。

第7地点（右下写真）

第7地点は表土を薄く剥いで小さな池を造ったところです。常に水が溜まっています。表土は薄くその下の地層はシルト質で固く締まっており、あまり水を通さない地層（難透水層）です。

池の周辺はアオコウガイゼキショウやカヤツリグサが見られ、その奥にはヤマイが大きな群落を作っています。ヤマイの勢いが強くなり分布を広げてナガバノイシモチソウの発芽を邪魔しているようなので、池の水位を下げて池を小さくしました。今年の冬にはヤマイの根を除去して勢いを抑えて分布を縮小させ、ナガバノイシモチソウが分布を広げられるようにするつもりです。



第1地点（西から 2018年8月16日）



第6地点（西から 2018年7月28日）



第7地点（西から 2018年8月16日）